

木の住まい論

4月に入り各地で満開の桜の便りが聞かれ、ご家族や友人とお花見を楽しまれた方も多くと存じます。

さて今年度から「居住空間工学」を長年研究している当センターの東樋口 護 理事長より、四半期ごとに「木の住まい論」をシリーズでご案内いたします。

「木の住まい論」 1－東樋口護

木造住宅の過去・現在・未来について、思いつくままに書いていきたいと思えます。

そこから、環境世紀の住まいについて、考えられたらと考えているのですが。

(1) はじめに一戦後、木造住宅は変わった。

日本人の住まいは木造住宅である。これが大変便利な住宅になった。幼い頃、冬のすきま風に耐え火鉢に手をかざし、こたつに潜り込んでいたような生活はもうない。憧れのモダンリビングを手にした。スイッチ一つで冷暖房がコントロールできるし、蛇口をひねれば水もお湯もふんだんに出る。

しかし、住宅も大量に作って使い捨てる、大変寿命の短いものになった。次から次へと商品化される、文字通り常に新しい新建材をてんでバラバラに使用することによって「個性」を発揮しようとするのだが、すぐに古くなってしまおうし、町並みも乱れるばかりだ。アルミサッシなどの使用による高气密化と新建材・接着剤の多用がシックハウス症候群すら生み出している。安全であるべき住まいが健康障害の原因になるということにもなった。また、急ぎすぎた住まいの近代化によって、日本の美として讃えられた民家や町家の風景を失なうことにもなった。戦後の住まいの近代化によって便利で効率のよい木造住宅を手にしたが、一方では失ったものも多いといえる。

では、これからの木造住宅はどうあるべきか。おそれずに言うと、私はこの半世紀に達成した木造住宅の近代化の効果を踏まえながら、伝統的な民家や町家で築いてきた木造技術を再評価し生かす道を探ることだと考えています。

到達した現代技術の上に立って、木を主要構造材として生かすという原点に立ち返ることが必要です。そこから、地球環境世紀の日本の住まいの一つの形が見えてくると考えます。
(つづく)

- ※ 維持保全計画、点検の実施についてご質問、ご不明の点は、事務局までお問合せ下さい。
- ※ お住まいのご質問や相談は電話かメールでお寄せ下さい。
- ※ センターのブログも是非ご覧下さい。<http://www.holsc.or.jp/information/blog/>
- ※ Facebook「いえかるて（住宅長期支援センター交流グループ）」にご参加お待ちしております。
<https://www.facebook.com/groups/212024602586512/?fref=ts>
- ※ 空き家や留守宅について管理や活用のご相談お待ち申し上げます。
- ※ 「住宅所有者 ID」をお忘れの方や、不明の方は info@holsc.or.jp へメールでお問い合わせをお願い申し上げます。登録住宅の説明はHP「<http://www.holsc.or.jp>」をご覧ください。
- ※ 「登録住宅いえかるて」についてのご質問や資料をご希望の方、「担当の点検登録店」がご不明の方は info@holsc.or.jp へメールをお願い致します。
- ※ 自治会や子供会等へ住まいの出前講座をお受けしています。イベント企画にご利用下さい。
- ※ このメールマガジンをご希望、又は不要の場合は、info@holsc.or.jp へご連絡をお願い致します。

一般社団法人 住宅長期保証支援センター

TEL : 06-6941-8336 FAX : 06-6941-8337 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4 MF 天満橋ビル5階